

個人データに基づくメタアナリシスを利用した進行・再発胃癌予後因子の検討

進行・再発胃癌の予後については、生存期間中央値が6~14ヶ月であり、新規治療の開発が行われているものの、いまだ予後不良な疾患である。進行・再発胃癌患者の予後因子の検討については、これまで様々な研究がおこなわれている。有名なものとしては、イギリスの Royal Marsden Hospital(RMH) index や日本の Japan Clinical Oncology Group(JCOG) index などの指標が提示されている。しかしながら、各 index の評価は単一の研究や特定の国で評価されたものであり、十分な検討がなされていない。また、治療効果予測因子に関する検討はあまりなされていない。

今回利用する GASTRIC 2nd round データは、進行・再発胃癌患者を対象に実施された臨床試験のメタアナリシスを実施するために、2010年から2016年に公表された各試験の個人データを収集したものである。このデータでは、胃癌研究のデータを11試験(6502人)収集しており、胃癌の予後因子、治療効果予測因子について多国的な検討を可能にしている。現在、予後因子として利用可能な変数の整理ならびにデータクリーニングを実施している。

抄読会では RMH と JCOG の指標について紹介し、その後 GASTRIC データの概要と使用可能な変数について検討した結果を報告する。

参考文献

- ・ Ian Chau, Andy R. Norman, David Cunningham, Justin S. Waters, Jacqui Oates, and Paul J. Ross “Multivariate Prognostic Factor Analysis in Locally Advanced and Metastatic Esophago-Gastric Cancer— Pooled Analysis From Three Multicenter, Randomized, Controlled Trials Using Individual Patient Data”
- ・ Daisuke Takahari, Junki Mizusawa, Wasaburo Koizumi, Ichinosuke Hyodo, Narikazu Boku “Validation of the JCOG prognostic index in advanced gastric cancer using individual patient data from the SPIRITS and G-SOX trials”